



「およたま通信」名前の由来

大曲出張所が管理している4つの河川、雄物川、横手川、玉川、丸子川の頭文字をそれぞれとって名付けました。

玉川でサケ稚魚放流式が行われました

～かわまちづくり神宮寺エリアにおいて～

平成24年4月11日(水)、曇り空の中、大仙市内の花館小学校3年生55名、四ツ屋小学校2年生40名、神岡小学校32名が参加のもと、大仙市花館の玉川橋右岸下流にてサケ稚魚放流式が行われました。放流が行われた場所は、花火やカヌーなど大曲地域の観光資源との連携を目指した、国交省の「かわまちづくり」の取り組みで、歩きながら自然を楽しめる「フットパス」が整備された場所です。

サケ稚魚放流式は、大仙市鮭ふ化放流事業組合と雄物川鮭増殖漁業生産組合の主催で、環境保全や命の大切さを子どもたちに知ってもらうことを目的に、毎年この時期に行われています。

この日放流されたのは、昨年12月に採卵し、児童たちが1月から水槽でふ化の様子を観察し、餌を与えて育てたものを含め、合わせて約50000匹の稚魚です。

児童たちは、体長5.5～6cm程に育ったサケの稚魚を「大きくなって帰ってきてね!」と言いながら、バケツから玉川に放流しました。

サケは、川のおいさを覚えて、海へと出て小魚などを食べながら大きくなり、産卵の時にはおいをたよりに再び自分が生まれた川に戻ってくるといわれています。

今年放流された稚魚たちが、3～4年後の秋、元気に玉川に戻ってくることが出来るように、みんなできれいな川を守りましょう。

かわまちづくり フットパスの整備地区

※「フットパス」とは？
歩いて楽しむ小みちのことです♪



ここから稚魚放流!
(玉川橋右岸下流)



稚魚を大きなバケツから
かけてもらっている様子



放流されたサケの稚魚たち



稚魚を玉川に
放流する子どもたち